

令和3年度いちごナミハダニの薬剤感受性検定結果

長崎県病害虫防除所

1. 試験目的

いちごの重要病虫であるナミハダニについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

そこで、各種薬剤に対する感受性検定を行い、薬剤抵抗性発達防止への取り組みの参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地区および実施日等

市町名	地区		採集日	接種日	処理日	判定日
大村市	松原	地床	4月27日	4月27日	4月30日	5月7日
長崎市	琴海長浦	地床	5月18日	5月19日	5月21日	5月28日
大村市	岩松	ベンチ	5月31日	6月1日	6月3日	6月10日
雲仙市	国見	ベンチ	6月2日	6月2日	6月4日	6月11日

2) 供試薬剤および供試希釈倍数

薬剤名	有効薬剤	成分量 (%)	IRAC	登録希釈倍数	供試希釈倍数	
					常用濃度	3倍希釈濃度
スターマイトフロアブル	シエノピラフェン	30	25A	2000	2000	6000
ダニコングフロアブル	ピフルブミド	20	25B	3000	3000	9000
[ダブルフェースフロアブル	ピフルブミド	15	25B	2000	2000	6000
	フェンピロキシメート	5	21A			
アフーム乳剤	エマメクチン	1	6	2000	2000	6000
アグリメック	アバメクチン	1.8	6	500~1000	1000	3000
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	10	30	2000	2000	6000
ダニオーテフロアブル	アシノナピル	20	UN	2000	2000	6000

3) 検定方法 リーフディッピング法

インゲン苗の初生葉 2 × 4 cm の葉片を切り出し、雌成虫を 10 ~ 15 頭接種し、2 日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、卵数を計数した。直ちに葉片ごと卵を所定濃度の薬液（展着剤添加）に約 10 秒間浸漬した。薬剤処理 7 日後に生存虫数と死亡虫数（ふ化後死亡幼虫および未ふ化卵）を調査し、次式により補正死虫率を算出した。

$$\text{補正死虫率} = \{ (\text{無処理区の生存率} - \text{処理区の生存率}) / \text{無処理区の生存率} \} \times 100$$

3. 結果

1) スターマイトフロアブル

すべての地区で常用濃度、3 倍希釈濃度ともに感受性が低かった。

2) ダニコングフロアブル

すべての地区で常用濃度、3 倍希釈濃度ともに感受性が低かった。

3) アファーム乳剤

長崎市(琴海)、大村市(松原)、大村市(岩松)で感受性の低下が見られた。
雲仙市(国見)では、3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。

4) アグリメック

長崎市(琴海)と大村市(松原)では3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。雲仙市(国見)では常用濃度、3倍希釈濃度とも感受性が低かった。

5) グレーシア乳剤

すべての地区の常用濃度では高い感受性を示した。
大村市(松原)では3倍希釈濃度で感受性の低下が見られた。

6) ダニオーテフロアブル

すべての地区で常用濃度、3倍希釈濃度とも高い感受性を示した。

表 令和3年度いちごナミハダニ薬剤感受性検定結果(補正死虫率) (%)

		スターマイト フロアブル	ダニコング フロアブル	アファーム 乳剤	アグリメック	グレーシア 乳剤	ダニオーテ フロアブル
長崎市 (琴海)	常用	76.1	62.3	81.5	93.8	100	100
	3倍	66.3	50.5	77.6	81.8	94.9	100
大村市 (松原)	常用	58.1	50.4※	72.1	92.8	91.8	100
	3倍	48.9	50.7※	83.5	41.5	69.7	98.9
大村市 (岩松)	常用	87.0	80.8	85.9	91.3	100	100
	3倍	81.7	57.3	95.9	96.3	100	100
雲仙市 (国見)	常用	57.2	67.9	96.8	77.9	97.1	100
	3倍	55.0	67.1	60.6	37.0	97.6	100

※大村市(松原)はダブルフェースフロアブルで実施

補正死虫率90%以下はセルを塗りつぶした。

表中の数値はハウス単位で採取したハダニの結果であり、各地域全体の感受性を反映したものではない。